

とびっくす 鎌倉シーサイドテニスクラブ チャリティーバザー収益金の寄贈がありました。

★地域に貢献しているシーサイドテニスクラブチャリティーバザー

鎌倉シーサイドテニスクラブ会員の皆様は、会員相互の親睦と地域貢献を目的とし平成5年より毎年文化の日にチャリティーバザーを開催しています。その収益金を地域で活用できる物として、当初より社協に様々な寄贈をしていただいております。(金額にして総額740万円になります。)

平成19年度寄贈品



●教養センターに37型プラズマテレビ



●老人いこいの家こゆるぎ荘にエアコン

※教養センター・こゆるぎ荘 高齢者の健康増進・教養の向上・レクリエーションの場の提供を目的として、生きがいをもって健康的な毎日を送っていただくための施設です。



●催事用貸出しテント(1基)と机(7台)

福祉関係の施設や団体がバザーやお祭りで使用するワンタッチ式大型テントと机です。



●鎌倉市福祉センター2階多目的トイレに、赤ちゃん用紙おむつ交換台

寄贈ありがとうございました。



はじめの一步

鎌倉をもっと住みよいまちにするため、地域福祉活動にご活躍されている方がたくさんいらっしゃいます。みなさんがどの様な“きっかけ”で活動をはじめ、どのような“想い”をもって活動をされているかご紹介させていただきます。

●今回は男性ボランティアグループ「ヤローズ」初代代表の島村学さん(65歳)にインタビューにご協力いただきました。



短気で喧嘩早いのが気だては優しい“しまさん”

を生かして社会の役に立てばという、何気ない気持ちからボランティアの一步を踏み出したと笑顔で語る。ちょうどその頃、社会福祉協議会が行っていた「男性のためのボランティア講座」に参加し、参加者同士が約半年間話し合いを重ねヤローズの立ち上げに至った。

活動する上でのモットーは、“人に何かをしてあげる”とか、“どう見られたか”ということ意識することなく、いかに自分が“満足感を得られるか”と

島村さんは、男性ボランティアグループ「ヤローズ」の立ち上げに深くかかわりを持ち、その活動も今年で8年目を迎えます。ひとり暮らしの高齢者宅の庭木の伐採や障子の張替えなど、男性ならではの力の発揮できる活動は鎌倉市内でとても必要とされているグループです。

島村さんの活動のきっかけは、小さい頃から手先が器用で“将来は大工などの仕事につきたい”という思いがずっと心にあったから。長年都内の会社に勤務していたときは、地元鎌倉に目を向けることはほとんどなかった。しかし、早期退職した57歳のころ、仕事上の付き合いや生活リズムがガラッと変わり、ようやく時間にゆとりが出来たときに、手先の器用さを

いう点を重視すること。とは言っても、一人よがりな自己満足の満足感ではなく、相手の立場を考えた上で自分にできることを行い、それが結果的に相手に必要とされたときや、相手と気持ちが通い合うことができたときの満足感を指している。この感覚はやってみないとわからないし、そんな満足感が得られなければこんなに長続きはしなかったと思う。反対に長い活動経験の中では嫌なことも何回もあった。例えば、ボランティアをする人は好きでやっているのだから、やってもらうのが当たり前という態度をされてしまう事。このような気持ちのすれ違いは不快な気持ちになるだけであり、ボランティアをする人も、ボランティアに支えられる人も“お互いありがとう”と思えないとボランティア活動は成り立たないという。

最後に島村さんはこう締めくくりました。みなさんが持っている優しい気持ちを少しずつでも身の回りで発揮してみよう!楽しかったなと思える気持ちが、自分自身にとって精神的にも豊かになれ、肉体的にも健康になるので、最初から構えず、気楽に「はじめの一步」を!



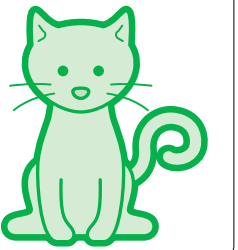
湘南鎌倉法律事務所
社協、福祉法律相談弁護士 有坂 正孝氏

ミーチャン

子のいないA子さんは、夫に先立たれた後、鎌倉市内の閑静な住宅地でひとり暮らしをしていました。「ミーチャン ママの膝にいらっしやい」。彼女は飼猫を我が子のように可愛がっていたのですが、昨年の春、脳梗塞で倒れ、市内の病院に緊急入院、その後、自宅から遠く離れた病院でリハビリの毎日を送っています。彼女は自宅に戻りたいのですが、主治医は高次脳機能障害により金銭管理に問題があることを理由に彼女の願いを聞き入れてくれません。他県に住む甥が病院にやってきて、彼女に向かって、施設に入るべき、と主張します。彼女は、家の庭の芝生で猫を膝に乗せて咲き乱れる草花を楽しんでいた日々思いが向かい、施設に入る気になれないのです。

私は、民生委員の撮った階段の踊り場から侵入者を警戒して見下ろす猫の写真を持ってリハビリ病院に向かいました。「血縁による支えがなくても、地縁による支えがあれば自宅で生活できるのですよ」ということを彼女に伝えるための訪問でした。

私が持参した写真を見つめる彼女の眼から涙が溢れました。「ミーチャン」。後は声になりません。



一口メモ



このマークを知っていますか??

マタニティマーク
(厚生労働省)

妊娠初期には、体調が悪くても、周囲からは妊婦であることがわかりにくく、交通機関等で席を譲ってもらえなかったり、周囲での喫煙を控えてもらえなかったりなど、配慮をしてもらいにくいことが多くあります。

そこで、妊産婦さんがマタニティマークのシール・キーホルダーを身につけることにより、周囲の人達が妊産婦さんへの配慮をしやすくするためのものです。

※シールは母子手帳交付の際に配付されています。

※キーホルダーは主に交通機関(JR横浜駅、江ノ島電鉄鎌倉・藤沢駅など)にお問い合わせください。